

日本海洋学会教育問題研究会
2015 年度活動報告および 2016 年度活動計画

2016 年 3 月 15 日

登録会員数 47 名 (2015 年 3 月比 +4、新規加入 5 名、逝去 1 名 (角皆静男 元会長))

2015 年度活動報告

1. 次期学習指導要領改訂に向けての活動

1) 地学教育フォーラム定例交流会に参加

日時：4 月 23 日 (金) 14:15-18:00

場所：千葉県立千葉女子高等学校

教育問題研究会参加者：市川洋

2) 第 20 回教科「理科」関連学会協議会 (CSERS) シンポジウムに参加

テーマ：小・中学校間での系統性を重視した連携を考える

日時：5 月 16 日(土)12:50~17:00

場所：化学会館 7 階ホール

主催：CSERS 教科「理科」関連学会協議会

教育問題研究会参加者：間々田和彦

3) 「第 3 回全国海洋教育サミット」でポスター発表

日時：12 月 5 日

ポスター発表題目：小学校理科第 4 学年単元「海を考えよう」の提案

ポスター発表著者：市川洋・丹羽淑博・轡田邦夫・岸道郎

4) 「理科カリキュラムを考える会シンポジウム」でポスター発表

日時：1 月 10・11 日

ポスター発表題目：小学校理科第 4 学年単元「海を考えよう」の提案

ポスター発表著者：市川洋・丹羽淑博・轡田邦夫・岸道郎

5) 理科第 4 学年新規提案単元「海を考えよう」の授業計画案を作成し、関係先に提案

・サイエンスアゴラ 2015 企画出展ブースでのポスターで概要を提示 (11 月 14・15 日)

・「第 3 回全国海洋教育サミット」でポスター発表 (12 月 5 日)

・学術学協会など外部からの教科・科目内容にかかわる意見が次期学習指導要領で反映されるためには、意見を年度内に出す必要がある、他の情報提供を入手し、具体的作業の検討を開始 (12 月 17 日)

・「小学校理科第 4 学年単元『海を考えよう』新設の提案」を中央教育審議会に 3 月末までに共同提案することを海洋学会から水産・海洋科学研究連絡協議会他に提案するについての承認を幹事会に求め、承認される (1 月 4 日)

・沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイントシンポジウムで提案 (1 月 9 日)

・「理科カリキュラムを考える会シンポジウム」でポスター発表 (1 月 10・11 日)

・海洋学会から関連協議会などへの依頼書発送を開始 (1 月 20 日)

- ・以下の関連学術団体・学協会から賛同を得て、改訂作業中。
水産・海洋科学研究連絡協議会、沿岸環境関連学会連絡協議会（応用生態工学会を除く）、
海洋深層水利用学会、海洋理工学会、日本海運経済学会、日本海水学会、日本サンゴ礁学会、
日本海洋政策学会、海洋調査技術学会
（延べ 34 学会・委員会等（合計 30 学会・委員会等）
注）以下の学会にも賛同依頼状を送付したが回答なし。
海洋音響学会、日本航海学会

・以下、予定

3 月 16 日 共同提案賛同学術学協会の最終確認

3 月 23 日 文科省に提出、公開（プレスリリース？）

担当：市川洋（11 月 5 日に岸道郎から交代）・丹羽淑博

協力：響田邦夫、伊藤進一、清野聡子

2. 「海のサイエンスカフェ」開催

1) 第 15 回

日時：3 月 21 日 10:00～11:30

場所：ヴァージンカフェ品川

話題：微化石が語る過去の海

話題提供：小野寺 丈尚太郎さん（海洋研究開発機構）

進行：橋濱史典さん（東京海洋大学）

主催：日本海洋学会教育問題研究会

担当：川合美千代、上野洋路

参加者：19 名（社会人・学生：11 名、海洋学会会員：8 名（うち教育問題研究会会員：5 名））

2) 第 16 回

日時：9 月 26 日（土）10 時～11 時 30 分

場所：愛媛大学 城北キャンパス内 セ・トリアンラウンジ（※セ・トリアン隣）

話題：凍る海のふしぎ

話題提供：野村大樹さん（北大低温研）

進行：平田 景都さん（愛媛大学）・上野 洋路さん（北海道大学）

主催：日本海洋学会教育問題研究会

協力：愛媛大学女性未来育成センター・NPO 森からつづく道

担当：上野洋路、川合美千代

参加者：31 名（高校生以下：9 名、大学学部生：7 名、大学院生・社会人 9 名、
教育問題研究会会員 6 名）

3. 第 4 回 COSIA（海洋科学コミュニケーション実践講座）の体験ワークショップ

日時：3 月 24 日（火）16:30～18:00

場所：東京海洋大学品川キャンパス講義棟 3 階 31 番講義室

主催：日本海洋学会教育問題研究会、NPO 法人海の自然史研究所

担当：今宮則子、市川洋

参加者：12 名（内 5 名は教育問題研究会会員）

4. 大学施設を利用した海洋教育の実践

日時：5月25日(月)09:00～11:15、5月26日(火)09:15～11:30

場所：横浜国立大学大学院環境情報研究院附属臨海環境センター・岩漁港（真鶴）

主催：真鶴町

協力：横浜国立大学、NPO 法人ディスカバークブルー、教育問題研究会

指導者：渡部 孟（NPO 法人ディスカバークブルー）

支援者：横浜国大教員1名、真鶴町立「遠藤貝類博物館」職員1名

NPO 法人ディスカバークブルー職員3名、教育問題研究会1名

受講者：真鶴町立真鶴小学校6年（5月25日：1組21名、5月26日：2組21名）、

教員2名、保護者1名

担当：菊池知彦、乙部弘隆 教育問題研究会参加者：乙部弘隆

5. 地学オリンピック国内選抜試験対策海洋学特別授業推進行動

三重県で開催される2016年国際地学オリンピックの出場者選抜試験対策として、海洋学出前授業の斡旋活動を推進した。出前授業が可能な海洋学会員を学会 ML で募集し、応募した学会員が指定する高校（出身高校、勤務地、居住地の高校）での海洋学出前授業開講を本研究会会長名での依頼状送付などによって支援した。

5月7日学会 ML で出前授業希望者を募集

応募者（4件8名）、依頼状送付先（6校、1組織）、実施（1校1名）

担当：岸道郎・市川洋

6. 「女子中高生夏の学校2015」への海洋学会の出展参加への協力

日時：8月7日

場所：国立女性教育会館（埼玉県比企郡嵐山町）

共催：国立女性教育会館、日本学術会議「科学と社会委員会 科学力増進分科会」、

日本学術会議「科学者委員会 男女共同参画分科会」

協賛：日本海洋学会、他

内容：ポスター展示・進路相談・小実験

出展題目：「海」にはなぞがいっぱい！海のなぞを探る研究あれこれ

参加者：教育問題研究会会員4名、学会員1名

担当：大林由美子、川合美千代

7. 東京都理数系教員指導力向上研修講師派遣

日時：8月10日

場所：東京大学理学部

主催：東京都教職員研修センター

協力：東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター

内容：「数値シミュレーションで学ぶ津波の物理の基礎」

来年度よりの本格的参加に向けて、試行

参加者：東京都公立高校教員9名

研究会会員（オブザーバー、響田邦夫、市川洋）

担当（講師）：丹羽淑博

8. サイエンスアゴラ 2015 への出展

日時：11月14・15日

場所：東京お台場地区

主催：海洋教育問題研究会

題目：私たちの生活と海の研究

内容：ブース展示（ポスター、実演）

出展協力：船の科学館

教育問題研究会参加者：乙部弘隆、伊藤進一、池上隆仁、轡田邦夫、岸道郎、大林由美子、
菊池知彦、市川洋

企画担当：市川洋

9. 出前授業斡旋

海洋学会広報委員会と連携して、海洋学会会員による出前授業を希望する学校に会員を紹介するシステムを構築・運用の検討を開始

担当：森岡優志、藤井直紀、上野洋路

10. その他

1) 2015年国際地学オリンピックブラジル大会 8月合宿研修講師派遣

地学オリンピック日本委員会から海洋学会への派遣依頼に対応

日時：8月9日

場所：筑波大学（つくば市）

主催：地学オリンピック日本委員会

内容：海洋学

対象：2015年国際地学オリンピックブラジル大会日本代表選手5名、他

派遣講師：市川洋

教育問題研究会見学者：伊藤進一、轡田邦夫

2) 理数系学会教育問題連絡会への参加

学習指導要領理科に海洋を加える活動の一環として、理数系学会教育問題連絡会への参加を関係者に希望したところ、各科目別の学会単位の参加となっているため、日本海洋学会からでは参加できないが、JpGU 教育検討委員会理数系学会教育問題連絡会担当委員であれば参加可能との回答であった。その後、JpGU 理事会で教育検討委員会理数系学会教育問題連絡会担当委員として市川洋が認められ、理数系学会教育問題連絡会に参加できることになった。

3) JOS ニュースレターでの寄稿掲載

海のエッセイ 7 - (轡田邦夫)

第5巻第1号 p.19.

第4回COSIA体験ワークショップ開催報告 (市川洋、今宮則子)

第5巻第2号 p.11-12.

国際地学オリンピックに向けた海洋学の出前授業を終えて (森岡優志)

第5巻第3号 p.13.

海のエッセイ 8 - (大林由美子)

第5巻第3号 p.18-19.

女子中高生夏の学校2015参加報告 (大林由美子、川合美千代)

第5巻第4号 p.8.

サイエンスアゴラ2015出展報告 (市川洋)

第5巻第4号 p.9-10.

<参考>

「女子中高生夏の学校2014－科学・技術・人との出会い－」で

海洋学を紹介しました（大林由美子、他）

第4巻第4号 p.4－5.

サイエンスアゴラ2014参加企画

「わたしたちの生活と海の研究」ブース出展報告（市川洋）

第4巻第4号 p.8－10.

4) 研究会ウェブサーバーの更新、運用

新規掲載

- 教育問題研究会2014年度活動報告
- 「女子中高生夏の学校2014 ～科学・技術・人との出会い～」参加報告
- 「第15回海のサイエンスカフェ」開催報告
- 「第16回海のサイエンスカフェ」開催報告
- 「第17回海のサイエンスカフェ」開催案内
- その他

研究会会員専用ファイルホルダーを開設

担当：藤井直紀、岸道郎

5) イベントの後援

- 夏休み子ども有明海科学教室 2015 「もっと知りたい！有明海の不思議」

日時：8月1日

場所：道の駅鹿島（鹿島市干潟展望館およびその周辺）

内容：有明海の姿について座学で解説するとともに、有明海生物の代表格である「ムツゴロウ」を調理したり、ビゼンクラゲを解剖し、その構造を見物する。

担当：藤井直紀

参加者：17名

教育問題研究会参加者：藤井直紀

<情報>

会員がかかわった海洋教育関連活動（抜粋）

1) 日本科学協会出前授業「もしも地球が立方体だったら」

日本科学協会が昨秋から全国の小・中・高校・大学などで展開している、地球科学を一般の人に親んでもらうことを目的に制作した短編映像「もしも地球が立方体だったら」を用いた出前講義の一部の講師を担当。

07月08日 大阪電気通信大学（小田巻実）

07月28日 愛知産業大学三河中学校（嚮田邦夫）

07月31日 セントヨゼフ女子学園（小田巻実）

08月25日 静岡学園高等学校（嚮田邦夫）

2016年02月16日 筑波大学附属中学校（市川洋）

<参考> 2014年12月22日 立正大学（開催準備・事前講義担当：岩崎望）

情報提供：市川洋

2) 日本学術振興会 研究成果の社会還元・普及事業「ひらめき☆ときめきサイエンス」

日時：7月26日(日)

場所：駿河湾内

題目：海の不思議にふれる ―望星丸は海の実験室―

参加者：中学・高校生（43名）、教員・保護者（19名）

講師：轡田邦夫、千賀康弘、澤本彰三、成田尚史、小松大祐

情報提供：轡田邦夫

3) 福岡のカブトガに保護の歴史を未来につなぐ会「干潟観察会」

日時：7月28日（火）

場所：糸島市前原下水管理センター・泉川周辺干潟

題目：夏休み干潟観察会―ハマボウ夢の里周辺を探検しよう―

参加者：小学生（40名）・大学生（10名）・保護者

講師：清野聡子、平野照実（糸島植物友の会会長）、塩川直光（泉川はまぼうの会会長）

情報提供：清野聡子

4) 第2回 海の科学講座 in 九州

日時：8月9日(日) 13:00-16:00

場所：福岡市 九州大学西新プラザ

共催：九州大学応用力学研究所、福岡管区气象台、西海区水産研究所

題目：「海を測る」

参加者：高校生を含む一般（約60名）

講師：千手智晴、榎田貴郁、奥山隼一

司会：岸真弓（気象キャスター）

情報提供：松野健

5) 海洋教育授業の実践

日時：10月7日

場所：都井中学校（宮崎県串間市）

対象：都井中学校 2、3年生 9名

目的：宮崎大学が海洋教育推進プログラム（日本財団）ですすめる地域の海洋教育の実践プロジェクトにつき、都井中学校が実践場所となって新しい海洋教育のカリキュラムをつくるものに協力するもの（海の自然史研究所）。

情報提供：今宮則子

6) 東京大学柏キャンパスオープンキャンパスに参加

日時：10月24日（土）

場所：東京大学大気海洋研究所

内容：紙芝居による海の話（3題程度）

演者：乙部弘隆

情報提供：乙部弘隆

7) 「理科の探検（RikaTan）」誌2016年8月号（6月26日発売）特集

【海のフシギ 海を科学する】記事執筆者の推薦

日時：2016年2月

内容：左巻健男 RikaTan 編集長の依頼を受け、以下の記事の執筆者を推薦

- ・海岸漂流物はどこから来るか？（道田豊）
- ・引き潮と満ち潮（小田卷実）
- ・海水浴で怖い離岸流について知っておこう（犬飼直之）
- ・海陸風（伊藤耕介）
- ・波はなぜ海岸に平行に打ち寄せるのか？（早稲田卓爾）
- ・海はどうしてできたのか？（山本伸次）

情報提供：市川洋

8) 「深海の宝箱—宝石サンゴ」の展示

期間：2016年2月26日～4月15日

場所：小笠原村ビジターセンター研修室（父島）

内容：宝石サンゴは日本が誇る海の宝石であり、小笠原近海にも分布しています。利用の歴史と生物としての宝石サンゴについて紹介。また、密漁被害の緊急調査の結果を紹介。

展示は調査に参加した学生が中心となり立案、展示品の製作、施行を行い、学生の教育を兼ねて実施。

主催：立正大学

後援：水産庁、東京都小笠原支庁、小笠原村、水産総合研究センター、深田サルベージ建設、小笠原島漁業協同組合、母島漁業協同組合

助成：日本海洋学会青い海助成事業

情報提供：岩崎望

9) 講演会「海をはかる —海洋観測と私たちの暮らし」

日時：2016年3月26日（土）

場所：東北大学大学院理学研究科 青葉サイエンスホール

主催：東北大学大学院理学研究科、東北大学災害科学国際研究所

共催：仙台管区气象台、国立研究開発法人東北水産研究所、東北大学グローバル安全学教育研究センター

後援：宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、日本海洋学会、公益社団法人日本気象学会

参加者：小中高校教員、一般（定員 100 名）

講師：ハワード・フリーランド、中村辰男、奥西武、細田滋毅

情報提供：須賀利雄

2016年度活動計画

1. 「海洋教育特別イベント—普及・実践のためのネットワークづくり」の開催

日時： 3月15日10時～17時、16日9時30分～17時

場所： 2016年度春季大会ポスター会場

共催： 日本海洋学会教育問題研究会、海の自然史研究所、海洋教育促進研究センター

担当： 轡田邦夫、今宮則子、丹羽淑博

参加： 17件

担当：岸道郎、轡田邦夫

経緯：

学会員が「海洋教育実践」に関わる情報を交換する場として、学会員（発表件数の制限外）のみならず学校および社会教育施設で海洋教育に携わる非会員（参加費無料）も発表が可能なオープンポスターセッションの具体的内容を作成し、その開設を2015年7月の幹事会に提案した。幹事会で議論の結果、2016年度春季大会に具体案を提示後、再度検討することとなったことに対応。

2. 「海のサイエンスカフェ」開催

1) 第17回

日時： 3月19日（土）10時～12時

場所： TULLY'S COFFEE（タリーズコーヒー）品川インターシティ店

話題： 海の酸性化と生物—未来の海を考える—

話題提供：栗原 晴子さん（琉球大学）

進行： 川合美千代（東京海洋大学）

主催： 日本海洋学会教育問題研究会

担当： 川合美千代、上野洋路

2) 第18回

日時： 2016年度秋季大会期間中

場所： 鹿児島市

話題： 未定

話題提供：未定

進行： 未定

主催： 日本海洋学会教育問題研究会

協力： 未定

担当： 上野洋路、川合美千代

3. 次期学習指導要領改訂に向けての活動

- 1) 中教審への提案内容（理科第4学年単元「海を考えよう」の新設）の改訂
- 2) 実験授業の検討
- 3) 授業指導解説書の検討
- 4) 関連学協会との連携の強化
- 5) 関連イベントに参加して追加情報を発信
- 6) その他

4. 出前授業幹旋

海洋学会広報委員会と連携して、海洋学会会員による出前授業を希望する学校に会員を紹介するシステムを構築・運用する

担当：森岡優志、藤井直紀、上野洋路

5. 大学施設を利用した海洋教育の実践

未定

6. 「女子中高生夏の学校2016」への海洋学会の出展参加への協力

日時：8月上旬

場所：未定

担当：未定

7. 東京都理数系教員指導力向上研修講師派遣

日時：8月12日 13:00-17:00

場所：東京大学理学部

主催：東京都教職員研修センター

協力：東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター

内容：海はめぐる-海洋科学の基礎と発展-

講師：響田邦夫、伊藤進一、市川洋

担当：丹羽淑博

8. COSIA 体験講習会の開催

日時：2016年度秋季大会期間中

場所：鹿児島市

共催：2016年度秋季大会実行委員会、教育問題研究会

講師：都築章子

担当：市川洋、今宮則子

9. サイエンスアゴラ 2016 への出展

日時：11月3-6日

場所：東京お台場地区

主催：教育問題研究会

内容：未定

企画担当：未定

10. その他

1) 2016年国際地学オリンピック日本大会（8月20-27日、三重県）への協力

・選手研修の講師の派遣

・その他

2) JOS ニュースレターへの寄稿

海のエッセイ-9- (町田 龍二)

投稿予定

女子中高生夏の学校2016参加報告 (未定)

投稿予定

サイエンスアゴラ2016出展報告 (未定)

投稿予定

3) 研究会ウェブサイト更新

●「海のこと、なんでも相談室（教員向け、報道関係者向け、一般向け）」の拡充

担当：藤井直紀、市川洋、川合美千代、難波美帆

4) 検討中

●旧課程理科教科書（単元：海）の現代版の刊行（丹羽淑博）

<情報>

会員がかかわる予定の海洋教育関連活動（抜粋）

1) ときわサイエンスカフェ（第3回）での話題提供

日時：7月16日(土) 10時-12時

場所：水戸市常磐市民センター

話題：海を測るーその意義、目的、方法、限界ー

講師：市川洋

情報提供：市川洋

2) 日本学術振興会 研究成果の社会還元・普及事業「ひらめき☆ときめきサイエンス」

日時：7月24日(日)

場所：駿河湾内

題目：海の不思議にふれるー望星丸は海の実験室ー

参加者：中学・高校生(40名), 教員・保護者

講師：轡田邦夫、千賀康弘、澤本彰三、成田尚史、小松大祐

情報提供：轡田邦夫